

国語科単元構想シート

第4学年 組()名 授業者

単元名 「お話の『じーん』としたところを紹介しよう」全11時間

教材名 「ごんぎつね」(光村図書4年下)

単元目標 (単元で育成を目指す 資質・能力)	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能](1)オ
◎…指導の重点	◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力等]C(1)エ
	○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 ((1)オ)	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 (C(1)エ)	進んで、登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わり結び付けて想像し、学習課題に沿って考えたことを友達に伝えようとしている。

単元で取り上げる言語活動
お話を読んで「じーん」としたところを、登場人物の気持ちの変化に注目して「じーんカード」にまとめ、紹介する。

単元の流れ	「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学ぶ姿		指導の手立て	
★「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間	「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学ぶ姿		「個別最適な学び」【個】・「協働的な学び」【協】	
①今までの読書経験の中で、「じーん」ときたことがあるか尋ね、「じーん」としたところについて共通理解を図る。「ごんぎつね」を読み、初発の段階で「じーん」としたところに付箋をつける。 ②「ごんぎつね」を読み、「じーん」としたところについて学級で共有する。教師のモデル「じーんカード」から、学習のゴールを共有するとともに、登場人物の気持ちの変化の場面の移り変わりの結び付け方について学び、単元計画を立てる。 ③「ごんぎつね」の設定や構成、登場人物の関係等、物語の大体を捉える。 ④⑤「ごんぎつね」を読み、「じーん」としたところを見つけ、その根拠として、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けながら想像する。★ ⑥「ごんぎつね」の「じーんカード」をまとめる。(⑦までに、並行読書した本の中から紹介したい本を選んでおく。) ⑦自分が選んだ1冊についての設定や構成、登場人物の関係等、物語の大体をとらえる。 ⑧⑨自分が選んだ1冊を読み、「じーん」としたところを見つけ、その根拠として、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けながら想像する。★ ⑩自分が選んだ1冊の「じーんカード」をまとめる。 ⑪「じーんカード」で物語を紹介し合い、単元の学習を振り返る。	A 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	必要な情報を確かに取り出す【①発見・蓄積】	B 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	
		物語を読んで、「じーん」としたところを見つけている。		交流を通して、様々な気持ちの変化を見つけている。
		情報を比較し、関連付けて整理する【②分析・整理】		
		物語を読んで、「じーん」としたところについて、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりに関連付けて見つけている。		友達と一緒に登場人物の気持ちの変化を叙述から考えることで、自らの考えを広げている。
		自分なりに解決し、知識を再構築する【③再構築】		
	友達に紹介したい「じーん」とした場面とその理由について、自分の考えを明確にし、まとめている。	友達とのやりとりを通して、友達に紹介したい「じーん」とした場面とその理由について、自分の考えを明確にしている。	・「切ない結末」「登場人物の気持ちの変化する」作品を並行読書の本として用意する。【個】 ・並行読書マトリックスを活用し、誰がどの本を読んだのか一目で分かるようにするとともに、目的に応じた交流相手を選べるようにする。【個】【協】 ・「じーんカード」のモデルを示し、登場人物の気持ちの変化と場面の移り変わりの結び付け方が分かるように教室に掲示するとともに、単元の見通しをもって学習計画を立てられるようにする。【個】【協】 ・様々な場面から、「じーん」とした場面とその理由とのつながりが見られるように、本文を全文掲示したものを用意する。【個】【協】 ・交流のモデル動画(ペア・グループ)を指導者が作成し、児童がタブレットでいつでも確認できるようにする。【個】	